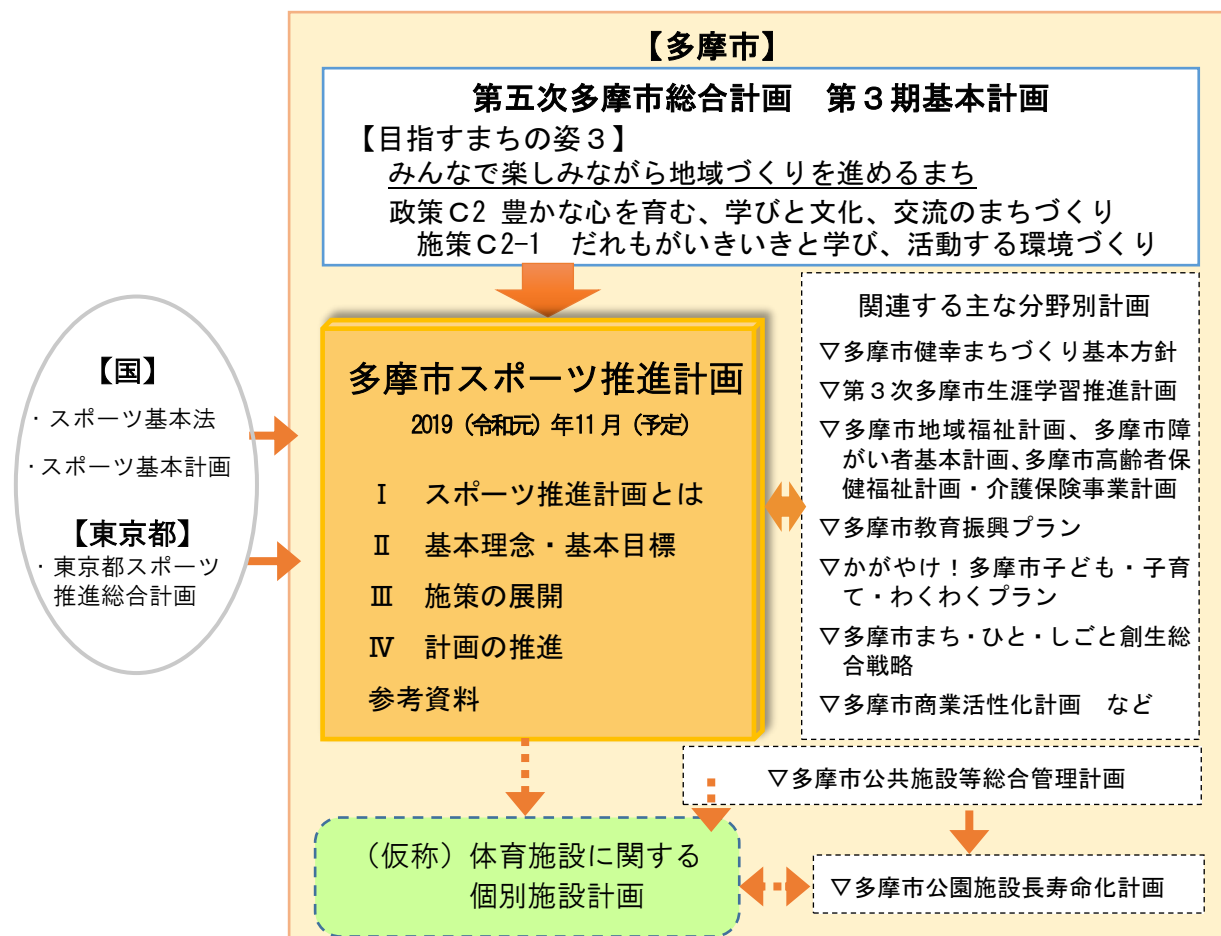


多摩市スポーツ推進計画(素案) 概要版

スポーツ推進計画とは

◎スポーツ推進計画とは

『多摩市総合計画』や健康・福祉、教育、産業振興などの各分野の関連計画との連携も含めて、広い意味での多摩市のまちづくりにスポーツの推進を通じて寄与する計画として策定する。



◎計画策定の趣旨

- ・市民一人ひとりが自らの意思でスポーツに取り組める環境づくりを進め、本市におけるスポーツ施策を総合的に推進する指針として策定する。
- ・スポーツが有する価値や意義、期待される役割の重要性を踏まえ、スポーツの推進を通じて、本市の豊かで活気あるまちづくりに寄与することを目的として定める。
- ・多くの市民が自らの意思で主体的にスポーツを行うことを推進するとともに、こうした市民の取り組みがスポーツを通じたまちづくりへとつながることを目指す。

◎計画の期間

計画の期間は2020(令和2)年度から2029(令和11)年度までの10年間を基本とする。

◎スポーツの基本的な考え方

(1) スポーツの力

スポーツは、喜びや感動を与えてくれます。

アスリートが真剣に勝負している姿が、多くの人を感動させるように、年齢や性別、国籍、障害の有無などに関わらず、だれもがスポーツから享受できる楽しさは、スポーツが根源的に有している力です。

スポーツは、人間的な成長を促します。スポーツは、人と人とを結びつけます。スポーツは地域づくりにつながります。スポーツを通じて、市民と市民、市民と来街者、市民と地元民間企業等とのつながりが生まれ、新たな取り組みが始まり、地域の産業に波及するなど、社会経済的な効果を生み出すことが期待されます。

スポーツには、市民生活の質の向上という役割を果たす力が秘められているのです。こうしたスポーツが持つ力を、日々の生活の中にバランスよく取り入れながら、豊かな多摩市をつかっていきたいと考えます。

(2) スポーツの定義

市民がスポーツをより身近なものとして感じることができ、気軽に楽しむことができるよう、本計画では、スポーツの概念を幅広く捉える。(ルールに基づいて勝敗や記録を競う競技スポーツだけでなく、健康づくりのウォーキングや体操、介護予防のトレーニング、子ども同士や親子での遊び、学校での体育活動、体操やダンスなどの身体活動、自然に親しむ野外活動やレクリエーションなども含む。)

(3) スポーツへの関わり方

- ・本計画では、自分が「する」だけではなく、「みる」、「ささえる」関わり方についても、スポーツ推進の観点から大切な取り組みとして位置付ける。
- ・本計画の推進過程において、多摩市らしいスポーツへの関わり方を新たに育んでいきたいと考える。
- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の成果を多摩市で活かすことなども含めて、未だ出会っていないスポーツとの新たな関わりを市民と一緒に創り出していく。

基本理念・基本目標

◎多摩市の主な特長・課題

市民活動が活発な地域性【人】

〈課題〉 市民の自主性を尊重し、自発的な取り組みへの支援が求められている。

豊かな自然環境【自然】

〈課題〉 自然や地形などを活かしたスポーツによる魅力の向上が望まれる。

身近な場所で運動が可能【場所】

〈課題〉 身近な場所で取り組めるスポーツの可能性を広げることが大切である。

数多い充実した施設【施設】

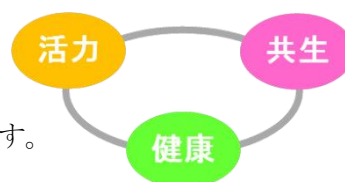
〈課題〉 既存の施設を有効に活用しながら特色ある取り組みが求められている。

民間企業や大学の立地【企業・大学等】

〈課題〉 民間企業や大学等と連携・協力したスポーツの推進が期待される。

◎基本理念 「健康」「活力」「共生」

- ・市民のだれもが生涯にわたり心身共に「健康」に暮らせることを目指す。
- ・時代の変化に対応しつつ「活力」を持ちながら暮らせることを目指す。
- ・思いやりの心を育み、すべての市民が「共生」しながら暮らせることを目指す。



◎基本目標

基本目標（目標とする10年後のまちの姿）を次のとおり掲げる。

スポーツで創り出す「みんなが笑顔」でつながるまち◎多摩

- ・本市で生活する市民をはじめ、本市で働き・学び・遊ぶ来街者なども含め、本市に関わるすべての人がスポーツを通じてつながり、笑顔になれるまちづくりを目指す。
- ・スポーツがきっかけとなって市民一人ひとりの健康づくりが促進されるとともに、地域資源を活かしながら多様な文化が融合しつながることで、人も地域も活気のある多摩らしいまちづくりを目指す。

◎施策体系の考え方

施策の柱1 **スポーツに触れる**

まずはスポーツに触れるきっかけをつくることから展開していく。「いつでも」「どこでも」「だれでも」を合言葉に、スポーツと接する身近な機会や場を生み出す。

施策の柱2 **スポーツを楽しむ**

スポーツを楽しむ心や文化を育む。市民一人ひとりがライフステージなどに応じてスポーツを楽しめる環境を共に創り出していく。

施策の柱3 **スポーツを継続する**

スポーツの楽しさを再体験し豊かにする。地域資源や多様な機会などを活かして、無理なく継続できるスポーツ環境の充実を図る。

施策の柱4 **スポーツライフを創出する**

スポーツをきっかけに自分らしく生活することを大切にする。健康に加えて、仲間づくりなど、スポーツのあるライフスタイルの創出に向けた取り組みを応援する。

施策の柱5 **まちづくりへつなげる**

スポーツによる効果を地域やまちづくりへと広げていく。仲間づくりから安全安心な地域活動、活気ある地域づくりへと広がっていくスポーツの取り組みを目指す。

5つの施策の柱は、「1 スポーツに触れる」から始まり、「5 まちづくりへつなげる」へと至る一連の流れを構成している。この流れは、「5 まちづくりへつなげる」から「1 スポーツに触れる」へと回帰し、好循環を生み出しながら広がっていく。

こうした好循環な流れを通じて、60%以上の市民が週に1回以上スポーツをしている現状を、多くの市民と一緒にさらに発展させていきたいと考える。

※各柱の施策は次頁参照

計画の推進

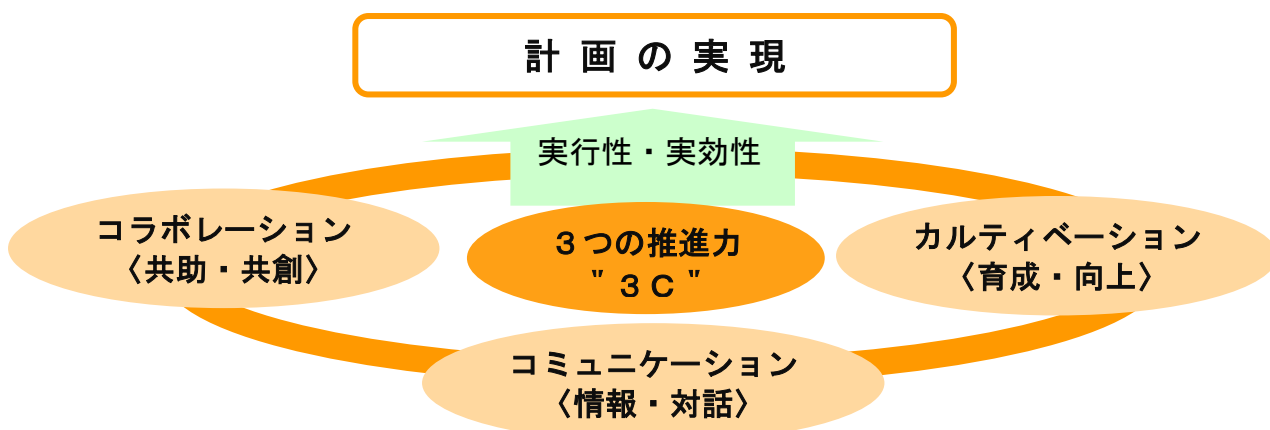
◎推進に向けて～3つの推進力"3C"～

- ・計画の実行性を確保し、実効性を高めていくために、以下の3つを本計画の推進力として位置付ける。
- ・これら3つの推進力"3C"は、各施策を実現性の視点から貫く取り組みである。
- ・これらは一つひとつの取り組みではなく、相互に連携・補完し合うことで相乗効果を高める。

Communication : コミュニケーション 〈 情報・対話 〉

Collaboration : コラボレーション 〈 共助・共創 〉

Cultivation : カルティベーション 〈 育成・向上 〉



◎施策の体系

基本
理念

基本
目標

施策の柱・施策(★=重点施策)

推進に向けて

